

# 【ユニリハ】全身の筋緊張制御を行うポジショニングからの 摂食嚥下リハビリテーション理論編×実技体感編

【長期療養生活6年、ADL全介助の症例に、局所的ではなく、全身の筋緊張を一度に落とすポジショニングを行ったところ、拘縮が変化して端座位や自立、20日後にお楽しみのゼリー食を用いた摂食嚥下訓練の介入に至った。】2013年9月。岡山開催の第9回摂食嚥下リハビリテーション学会へ口述発表する。

本セミナーは、この原理と、症例報告から全身の筋緊張制御を行うことでの、呼吸筋、横隔膜、呼吸数の低下（過呼吸の変化）、舌骨上筋群、舌骨下筋群の過緊張の改善、摂食嚥下の変化を報告し、『 $p \times s = mg$ 』の物理学的根拠から認知、高次脳機能、筋収縮様式の変化を熟考し考察する。

日時 2017年5月28日(日) 10:00~16:30

会場 八王子市芸術文化会館いちようホール (東京都八王子市本町24番1号)

受講料 15,000円 (理論編のみ7000円)

申込URL <https://www.meducation.jp/seminar/regist?id=49323>

お問い合わせ 日本ユニバーサルリハビリテーション協会  
TEL 042-208-0102  
E-mail [otmode@jcom.home.ne.jp](mailto:otmode@jcom.home.ne.jp)  
URL <http://universalreha.com/>

## 【理論となるポジショニングの学術的評価】

近年、身体質量と重力を拮抗させた環境で行うポジショニングアプローチを行う事で、筋緊張が安定し、関節拘縮の変化と長時間持続する臨床研究が発表されました。ニュートン物理学、第三法則、作用-反作用の法則の、反作用を限りなく小さくするという、微小重力相対性理論の仮説を実証した結果で、低反撥マットレスを数枚重ねてポジショニングを行うことで仮説の立証に成功しました。この環境を Reabilitatuon & Engineering Design -R.E.D.-とし、2010年より研究が開始されました。

身体にかかる重力が小さくなり、収縮の必然性がなくなる筋、腱は、柔軟性を取り戻し、神経や感覚入力と相互作用していきます。変化した身体状況は自律神経系の安定(副交感神経優位)や呼吸、循環へと波及し、過緊張、低緊張など異常筋緊張の安定に結びついていきます。

局所的ではなく全身的な筋緊張制御や過緊張の緩和が摂食嚥下機能に及ぼす影響を提案し、その技術論及び実技を学んでいただきます。

